

環境問題も貧困も紛争もない

未来への想いを 歌い続けたい

【写真提供】 ©Rhythmedia inc.

貧困問題から生物多様性へ

昨年10月に愛知県名古屋市で開催された「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」の名誉大使を務めたMISIAさん。圧倒的な歌唱力を持つシンガーとして活躍する一方、貧困問題や途上国の子どもたちの教育支援に取り組んでいるMISIAさんから、生物多様性についてメッセージをいただきました。

私は、幼少期を長崎県の対馬で過ごしました。自然豊かな場所で平和教育が盛んだったこともあり、自然や平和への関心が生まれました。また、小さい時に「Do They Know It's Christmas?」や「We Are The World」

（※1）を聞いて、アフリカの貧困問題を知りました。デビュー後も、「ほっとけない世界のまずしさ」キャンペーン（※2）に参加したり、「Child Africa（※3）」を立ち上げたりしながら、貧困問題などに取り組んできました。

アフリカでは、開発による水質汚染などが原因で魚が食べられなくなった。近代化されたライフスタイルが導入されたことで、その地域の自然のバ

ランスが崩れたり…。生活向上のための開発が逆に住民の方々の生活を困難なものにしてしまっていました。開発や自然破壊が、貧困につながる現実を目の当たりにし、そこから生物多様性の意識が生まれました。

都市で生活していると、森林伐採による土砂崩れや、昆虫がいなくなることで起きる食料生産の減少などの問題を実感しにくいのが現状です。しかし、すべての問題はつながり合っています。そのつながりを皆で考え、発信したい。COP10の名誉大使をお引き受けしたのは、このような体験や想いがあったからです。

失われてきた 文化や伝統を見直す

大使として、まず各地を視察し



▶ 川辺のアマガエル
（石川県羽咋市）

◀ 5月22日の国連生物多様性の日に
開催されたイベントにて

「SATOYAMA BASKET」というサイトを
設けて、現地の様子や、生物多様性
に関する情報を紹介しました。

最初に訪れたのは、4歳から11年間
過ごした対馬でした。当時から「ツシ
マヤマネコという絶滅危惧種がいる」
と聞いていたのですが、その生態や現
状は知らずにいました。改めて行つて
みて、多くのことに気付かされました。
例えば、ヤマネコを守るには、その種

だけではなく、エサとなるネズミの数
を増やさないといけないし、そのため
にはネズミのエサとなるドングリが採
れる広葉樹を植えなければならぬ。
また、ヤマネコが好む里山の環境を維
持するために農薬使用も見直さないと
いけない。交通事故に遭うヤマネコも
多く、道路の下に獣道を造ったりして、
道路を渡らずとも道を横断できるよう
にしたりといった取組があることにも

驚きました。

石川県羽咋市^{はくいし}

の棚田では、減
農薬米を地区全
体で作っていま
した。農薬を減
らしたことで、
いなくなってい
た虫や魚、鳥が

戻ってきていると聞き、生態系は、私
たち自身が気づき、行動すればまだ守
れる、まだ間に合うこともあるのだと
思いました。

里山に代表されるように、私たち
は自然に感謝し、自然と共存してき
た文化や伝統を持っています。貧困
問題でも感じるのですが、生物多
様性の問題は、失われてきた文化や
伝統を、もう一度見直し、昔の人々
が培われてきた知恵を学ぶことも、
解決への大きな力になると改めて考
えるようになりました。

私は現在 mudel という団体の理事
をしています。mudelでは今年の5
月22日から石川県森林公園で「MIS
IAの森」というプロジェクトを開始
する予定です。たくさんの方に、生物
多様性の大切さについて、これからも
メッセージを発信したいと思います。



保護されたツシマヤマネコを観察する
(長崎県対馬市)

歌を通してメッセージを発信

すべての問題が解決して、世界中ど
こでも歌えるようになったら、世界の
交流はもっと活発になるし、もっと楽
しい世界になります。「歌」という字
は、神様に自然の恵みを感謝して器を
ささげて五穀豊穡を願い、口を開けて
祈っている姿を表しているのだそうで
す。この文字には、昔から人間は自然
に感謝しながら、自然と共生してきた
ということが表れているし、歌そのも
の、自然の中から生まれたのだと思
います。

自然への感謝の気持ち、自然と共
存してきた歴史があるからこそ、今
があり、様々な文化・伝統・文明
がつくられていることを伝えたい――。
昨年9月、国連本部で開かれたMDGs
(※4) サミットでの記者会見では、



【写真提供】 ©Rhythmedia inc.

- ※ 1 「Do They 〜」(1984年)は、イギリス・アイルランドのアーティストがエチオピア飢饉救済を目的に、「We Are 〜」は85年にアメリカのアーティストがアフリカの貧困解消を目的に発表したチャリティソング。
- ※ 2 貧困をなくすためのグローバル・コール(Global Call to Action against Poverty)の日本キャンペーン(2005〜2008年)。貧困問題解決に向けたイベントや啓発活動を実施。
- ※ 3 途上国の子どもたちへの教育支援を目的に2008年に活動を開始。2010年から財団法人「mufef」の事業として継続。
- ※ 4 国連ミレニアム開発目標(MDGs: Millennium Development Goals)。極度の貧困と飢餓の撲滅や、環境の持続可能性確保など、2015年までに達成すべき8つの目標を掲げている。
- ※ 5 MISIAの野外ライブ。2010年7月に開催した「VI」では、国連生物多様性条約事務局や生物多様性×MISIAプロジェクト(環境省)の協力で、ステージ上で生物多様性を紹介する試みも。
- ※ 6 デイヴィッド・フォスターがプロデュース。COP10のオフィシャルソング。

「歌」の文字を使って、生物多様性の重要性を発信させていただきました。また「星空のライブVI」(※5)では、訪れる土地ごとに伝えたいメッセージを歌詞にして、同じメロディにのせて、手紙の形で歌いました。それが「LIFE IN HARMONY」(※6)という曲で、



「歌」の文字で生物多様性のメッセージを発信(MDGs サミット: ニューヨーク)

全ての命がつながり合い、続いていく、そしてその先に、私もあなたもいることをメッセージに込めています。

環境問題に取り組む皆さんとともに

私にとって生物多様性は、命が存在できる条件であり、私自身も含めた、命のつながりです。その命のつながりは、一枚の大きな織物のように感じます。しかし今は、その織物の様々な部分が解け、切れてしまっています。現在、生物種は20分間に1種という、恐竜が絶滅したときより10000倍も速いスピードで失われつつあるといわれています。

私たちの生活は、生物多様性なしに

は成立しません。まずは「ミレニアム開発目標MDGs」が、2015年までに達成されることを願っています。達成されれば、世界は変わるでしょう。

また、視察で訪れたどの場所にも、この環境を守っていこう、危機的状況又何とかしようと活動されている方々が多くいらつしやることに、心を動かされました。ボランティアの方々もたくさんいます。このような状況があることは、とても希望のあることです。私も、環境問題に取り組む皆さんと

一緒に、様々な問題を考え、よりよい世界づくりができればと思います。伝えたい想いを曲にして、世界中の人にに向けて歌い続けていくこと、それが私にできる一番の方法です。いつかきっと、私たちの願いや想いが、環境問題も貧困も紛争もない未来をつくっていくことでしょう。



MISIA

1978年生まれ。98年「つつみ込むように…」でデビュー。以後、「Everything」「逢いたくていま」など多数のヒット曲を発表。2005年から貧困をなくすためのグローバル・コールの日本キャンペーンに参加。2008年「Child Africa」開始。一般財団法人「mufef」理事。国際機関と協力して、途上国の子どもたちを取り巻く教育の問題を中心に支援活動を行うなど、世界的視野のもとでの社会貢献活動にも注力している。



ライブ会場などで行われた生物多様性MY行動宣言・かざぐるまキャンペーン。「自分にできること」を書いた折り紙で、かざぐるまを作った